

アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議 次第

第 4 回

日 時：令和7年12月22日(月)10時00分～

場 所：福岡アジア美術館 8階会議室

－ 次 第 －

1. 事務局より挨拶

2. 議事

・拡充先における施設整備について

・管理・運営の基本的な考え方

・美術館の事業手法、公園の活用手法について

3. 意見交換

< 配付資料 >

資料 | 第4回「アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議」資料

参考資料 ・令和7年12月議会 経済振興委員会 報告資料

「アジア美術館 魅力向上に向けた基本計画の検討状況について」

1 拡充先における施設整備について

(1) 地上の利用計画を検討するにあたっての整理
○都市デザインとアート、みどりの配置について

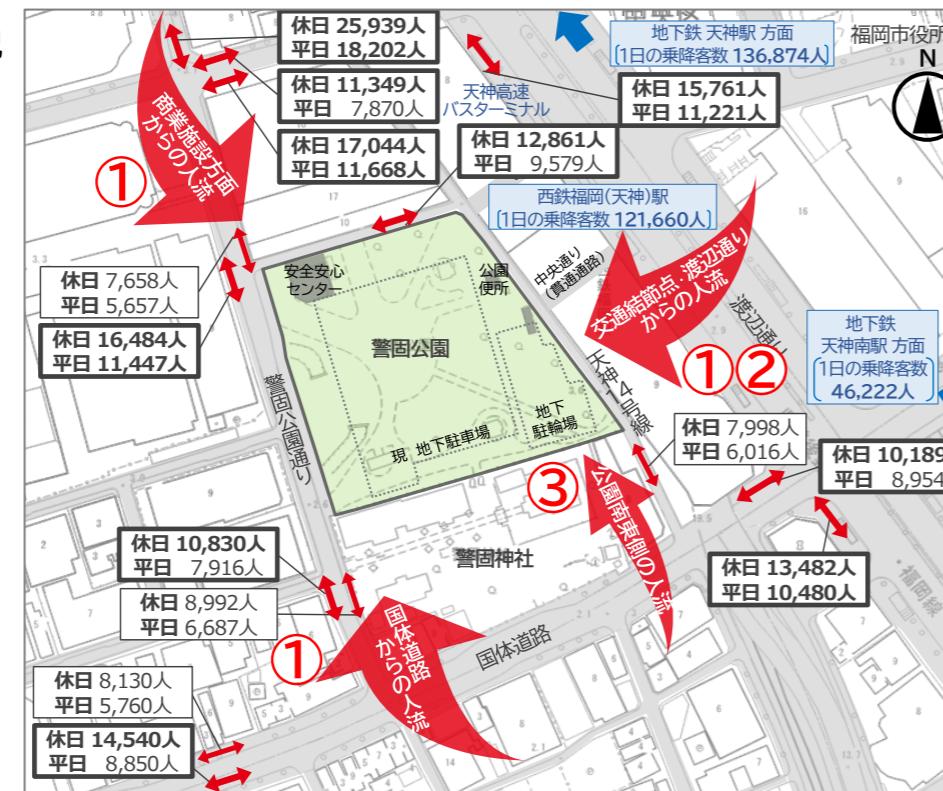
<拡充先周辺図>



「都心主軸」や「回遊強化軸」を踏まえながら、拡充先・現館・Artist Cafe Fukuokaに加え、福岡市美術館や周辺の文化施設との繋がりも意識しつつ、アートを介した回遊性の向上を図っていくことが望ましい

○周辺道路における歩行者の状況

<周辺の歩行者交通量等>



※データ元概要

・歩行者交通量は、R6:天神地区1日あたり(7:00~20:00)のもの

・乗降客数は
地下鉄:福岡市統計書(令和6年版)より集計
西鉄:西鉄公表資料より記載

- ①岩田屋、パルコ等の「商業施設方面」や「国体道路」、「渡辺通り」の歩行者交通量は、休日には1万人を超えるなど人流が特に多く、これらの人流を取り込み、主要なアクセス軸として計画する必要がある。
- ②渡辺通り側には、市内でも最大級の乗降客数を有する鉄道駅が集中しており、「交通結節点」として重要なと言え、渡辺通りからの人流と併せて重視する必要がある。
- ③「公園南東側」は、相対的に少ないものの、1日5,000人超の歩行者交通量があり、一定の交通量があると言え、この方面的動線も適切に配慮しながら計画することが重要である。

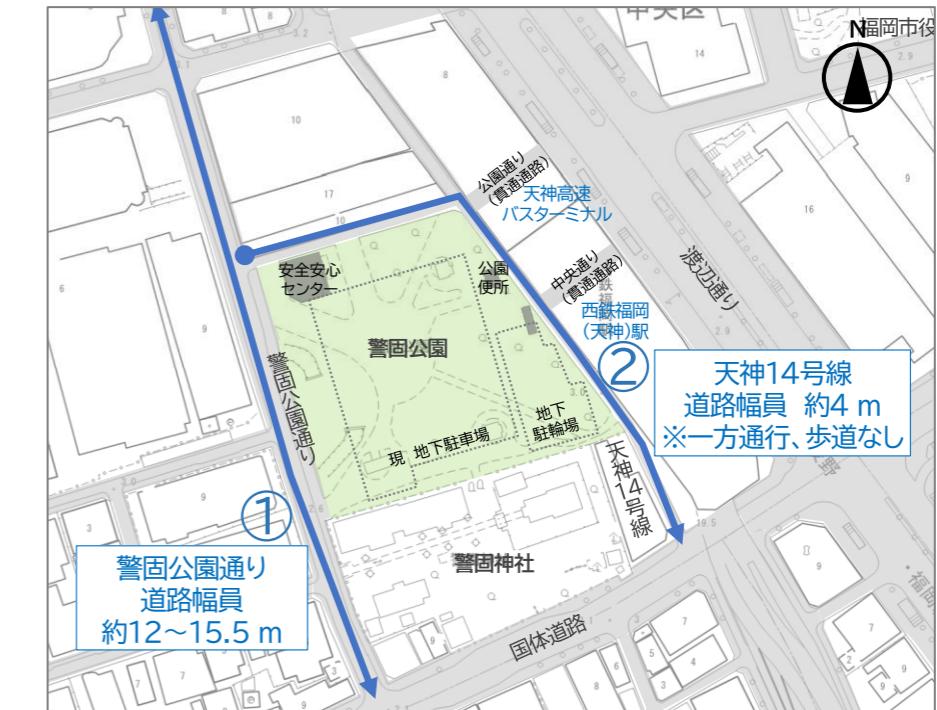
○搬出入車両の動線の検討

警固公園の周囲には2種類の道路が接しており、どちらも広幅員の国体道路に接続している。

①警固公園通りは幅員約12~15.5m、②天神14号線は、幅員約4m、歩道なしの一方通行の道路となっている。

美術館の搬出入車両として想定している大型車(10トントラックや40フィートコンテナ積載車両等)が安全に通行可能な幅員を有する道路は①警固公園通りとなる。

このため、搬出入車両の動線は、①の道路側、公園の西側に計画するよう検討していく。



○公園として考慮すべき視点

①公園と周辺に開放された動線確保

周辺施設との回遊を促進するために、公園全体を多方向につなぐ動線の確保が必要

②まとまった広場空間

災害時等の都心部における一時避難の場所、活動の拠点として、まとまった広場が必要

③見通しの確保

安全安心を確保するために、公園内を見通せ、死角をできる限り減らすような配慮が必要

④みどり空間の確保

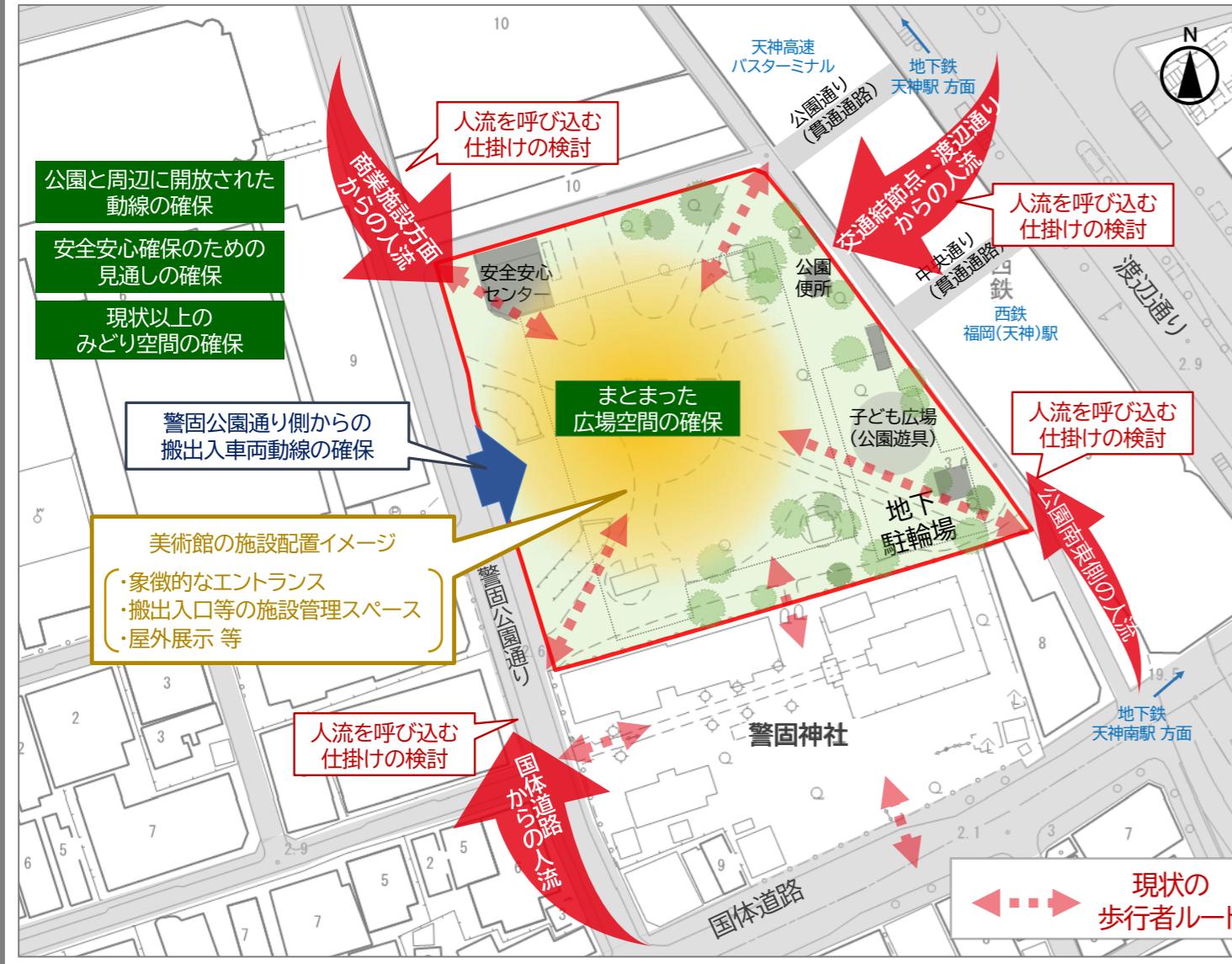
現状以上のみどり空間を確保



1 拡充先における施設整備について（つづき）

（2）地上利用計画の検討の視点まとめ

これまで整理してきた、回遊性の向上や周辺の人流、搬出入車両動線、公園として考慮すべき点といった視点をもとに、美術館の配置計画・利用計画について、引き続き検討していく。

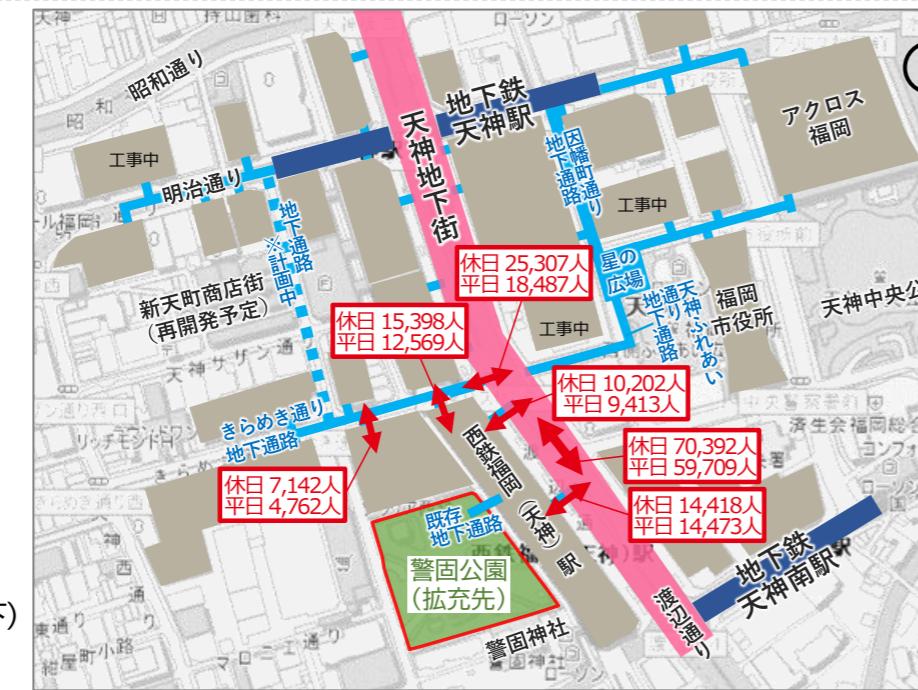


<参考：地下ネットワークの状況>

地下からのアクセスについては、天神地区の地下ネットワーク状況を踏まえ、引き続き調査していく

- : 天神地下街
- : 地下通路
- : 地下鉄駅
- : 地下の歩行者交通量

※歩行者交通量データはR6:天神地区(地下)
1日あたり(7:00~20:00)のもの



（3）美術館の整備イメージ

全体床面積(目安) 7,500~9,000m²

※参考: 現 地下駐車場の1層あたりの床面積 約4,900m²

①警固公園地上部の考え方

- ・美術館が警固公園地上部を活用できる建築面積は、（公園面積）の10%を想定。

建築面積の想定

$$11,156\text{m}^2 \text{ (公園面積)} \times 10\% - 143\text{m}^2 \text{ (既存施設面積)} = \text{約}970\text{m}^2$$

※既存施設…階段室（駐車場）

- ・美術館として地上配置が望ましい床面積（約1,000~1,500m²を想定）

エンタランス、所蔵品の搬入出口や一時保管庫や各種機械室等

②警固公園地下の考え方

- ・美術館として地下駐車場を活用し配置する床面積（約6,500~7,500m²を想定）

ギャラリー、展示準備室、ワークショップ室、ボランティア室、飲食提供、ショップ、事務室等

①地上部について

- ・公園施設の建ぺい率を考慮し、搬入出口や一時保管庫、各種機械室など管理運営上、最小限必要な諸室の配置を検討するとともに、象徴的なエントランスの確保について検討する。

②地下について

- ・既存の駐車場躯体を展示空間として活用するため、天井高を確保するよう構造等を検討し、ギャラリーを中心とした諸室配置を検討する。
- ・その他の諸室については、現在のスロープ部等を活用した地下増築を含め検討する。

[その他検討項目]

採光の工夫、地上でのアート空間の展開、にぎわい・集客機能の運営方法など

2 管理・運営の基本的な考え方

(1) アジア美術館【現状】(運営面)

○開館時間・観覧料等

①開館時間

<有料ゾーン> ギャラリー観覧時間：9:30～18:00(金曜・土曜は20:00まで)
 <無料ゾーン> 開館時間：9:30～19:30(金曜・土曜は20:00まで)
 (ミュージアムショップ 9:30～18:00 / カフェ 11:00～18:00 / 図書閲覧室 10:00～16:30)

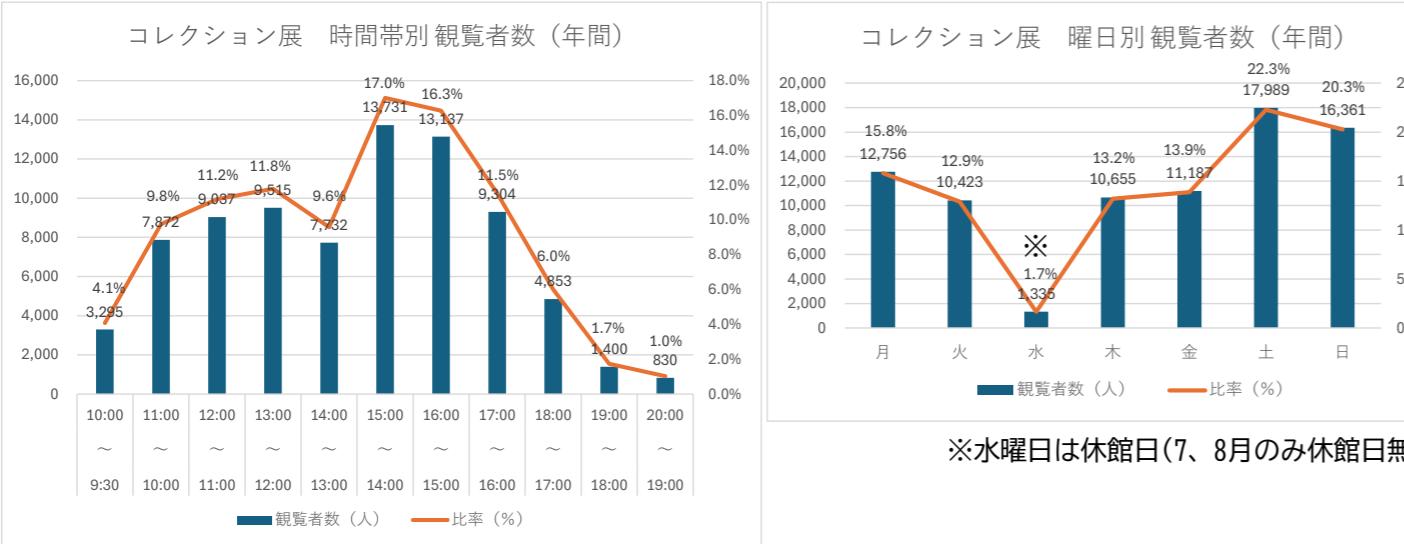
②休館日 毎週水曜日(水曜が休日の場合はその翌平日)、年末・年始(12月26日～1月1日)

③観覧料 コレクション展観覧料：一般 200円、大学生・高校生150円、中学生以下無料
 特別展示観覧料：展覧会により設定(1,000～1,600円程度)

④賑わい創出の取り組み(ユニークベニュー)
 毎週金曜日の夕方に観光客を対象とした「Live@Museum(ライブアットミュージアム)」を開催する等、集客イベント等で活用

○コレクション展の開催状況と観覧者数(令和6年度実績)

コレクション展	会期	観覧者数
展覧会1 アジアン・ポップ	4/20～9/3	39,297人
展覧会2 福岡アジア美術館ベストコレクションⅡ しなやかな抵抗	9/14～R7.4/8	41,408人



○入館者数と観覧者数のベンチマーク(令和6年度実績)

	現アジア美術館の実績	指標 (福岡市美術館の実績)
入館者数(年間)	380,306人	667,556人
コレクション展観覧者数(年間)	80,706人	241,415人

○組織編制

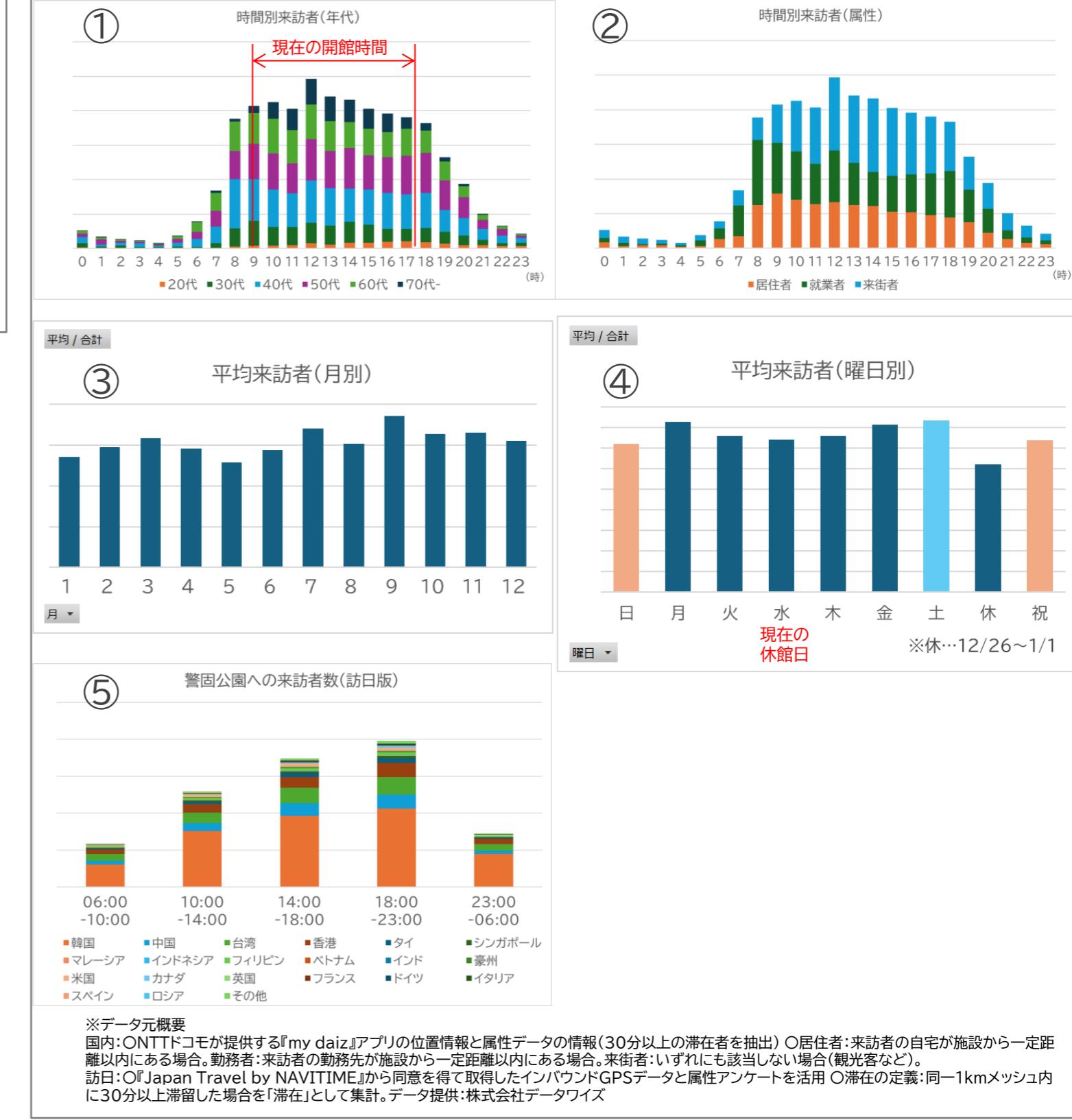
※R7.12.1現在

総館長、館長(総括)	
運営課長	運営係(計8名) 係長:1 事務:2 会計年度任用職員:5
学芸課長	収集展示係(計7名) 係長:1 学芸員:2 会計年度任用職員:3 再任用:1 交流・教育係(計7名) 係長:1 学芸員:1 会計年度任用職員:5
課長(魅力向上検討)	(計3名) 主査:2 係員:1

(2) 警固公園の来訪者傾向【現状】

拡充先である警固公園の来訪者の現状を分析し、開館時間等への参考とする。

警固公園の来訪者滞留データ(全体) 期間:令和6年4月1日～令和7年3月31日



データからわかる検討項目

- 平日や朝・夕方の公園来訪者が多いため、こうした動向に合わせた開館時間や休館日の設定が重要
- 外国人観光客は夜間の来訪が多く、夜間利用の需要が見込まれるため、そのニーズに応える開館時間やサービスの検討が求められる

2 管理・運営の基本的な考え方（つづき）

（3）管理・運営の基本的な考え方

○基本的な方針に基づく、拡充先の管理・運営の基本的な考え方

アジア美術館の魅力向上の基本的な方針を踏まえ、拡充先における管理・運営の基本的な考え方について、以下のとおり整理する。

①アジア美術との多様な出会いを創出する

子どもから大人まで、さまざまにきっかけで訪れる人々に対して、アジアの多様な美術や文化と気軽に出会う場を提供します。

②アジア美術を楽しみ、知る機会を創出する

子どもから大人まで、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめる学びの機会を提供します。特に、未来を担う子どもたちにとって、楽しみながらアジア美術を体験し、多文化や多様性について、楽しみながら体験し、学べる場を提供します。

③公園との一体化・連携

都心の核である天神の公園と連動した開かれた施設として、賑わいの創出と、多様な来館者が安心して過ごせる環境づくりと、地域の安全・安心に貢献する運営を促進します。

④広報活動の充実・デジタル活用

- ・SNSやウェブサイト等を活用し、展覧会や収蔵作品等の情報を積極的に発信する。
- ・観光客向けに、旅マエ・旅ナカでアクセスしやすい情報発信を行い、利用促進につなげる。
- ・デジタルコンテンツ開発、デジタルアーカイブ化等を推進する。
- ・デジタルを活用し、国内外へアジア美術の魅力を広く伝えるとともに、遠隔での体験から来館につながる仕組みづくりを行う。
- ・DXを推進し、サービス向上と効率的な運営を図る。

⑤安全安心の確保・効率的運営

- ・防災性を確保し、高い危機管理能力を備えた管理体制を構築し、来館者が安全、安心に過ごせる環境を整える。
- ・市民の財産である美術品を適切に保護するため、万全なセキュリティ体制を確保する。
- ・民間活力の導入や、専門家による知見を活用し、サービス向上と来館者拡大に努める。
- ・広告収入や協賛、支援者拡大等の多角化な収入確保に努めるとともに、持続可能で自立性の高い運営体制を検討する。

○拡充先の管理・運営の具体的な考え方

上記の基本的な考え方や、現状の運営面、警固公園の来訪傾向等を踏まえ、拡充先における管理・運営のあり方について、より具体的な考え方を整理する。

①開館時間・開館日

- ・都心の賑わいの中心という天神エリアの特性や公園来訪者等の特性を踏まえ、ターゲットに合わせた開館時間や、展示室以外のスペースの夜間活用等、利用目的に応じた柔軟な運用を検討する。

②利用料金

- ・展示室以外でも楽しみ、滞在できるオープンなスペースを整備し、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな来館目的に応えられる運用を図る。

③展示以外での利用の考え方

- ・夜間や非展示時間帯も活かしながら、講演会、レセプション、企業イベント等のユニークメニューとしての利用を推進する。
- ・作品保護や安全確保を前提に、ロビー等のパブリックスペースを柔軟に活用できる運営ルールを整備する。
- ・地上の公園と連携し、賑わいの創出につなげる。
- ・周辺の施設や企業と連携した、文化的なイベント等の実施を検討する。
- ・イベント等を通じて新たな来館層の掘り起こしと、アジア美術館の認知向上を図る。
- ※なお、展示室での販売を前提とした展示は行わないものとする。

（4）組織体制と人材に関する考え方

<現在の体制>

美術館のコア業務である、展示、教育普及、調査研究、作品収集、美術交流については、主に学芸課が担い、その他の館の運営に必要な総務事務、施設管理については、運営課（事務職員）が行っている。広報は館全体で連携して実施している。

警備、清掃、看視等の運営業務は民間事業者に委託し、ショップ・カフェはテナントとして貸出、運営している。

<拡充後の組織体制・人材に関する考え方>

拡充後の多様な利用形態に対応しつつ、アジア美術館がこれまで培ってきた専門性と独自性を引き続き発揮できるよう、拡充に向けて、組織体制や人材面の強化を検討していく。

(組織体制や人材のイメージ)

展示、学び・体験、広報・集客・地域連携、総務・施設管理など、適切な美術館運営や魅力向上に求められる部門について、コア業務は今後も美術館が担いながら、事業規模の拡大や業務の多様化に、効率的に対応できる組織体制を検討する。

あわせて、マーケティングや、展示空間の魅力的な演出やデザイン等、多様な強みを持つ人材の活用や民間活力の導入も視野に入れながら、運営の質を高め、魅力向上につながる取り組みを検討する。

3 美術館の事業手法、公園の活用手法について

(1) 第3回有識者会議資料より

○基本的な考え方

施設拡充の検討にあたっては、公共の財政負担の低減や施設の効率的な運営を図ることを基本に、以下の考え方も踏まえつつ、民間事業者の意見を参考に、アジア美術館の魅力向上を実現する最も適切な手法について検討していく。

①整備面における考え方

都心部の中心に位置する警固公園に施設拡充を行うにあたっては、公園との一体化や象徴的なエントランスをはじめとする建築の意匠性、アートを感じられる屋外空間の創出など、魅力的な建築・空間デザインが必要不可欠となるため、**多彩なデザイン提案を募ることができる手法の検討**が必要。

美術館の基幹機能を維持し、運営や活動の独自性、柔軟性、継続性を確保できる施設整備が必要。また、来館促進やにぎわい創出に資するサービス機能において、民間の創意やノウハウを活かすことができる施設整備について検討。

②運営面における考え方

これまでの先駆的な取組みの継続により培ったアジア美術館の文化的意義や評価などの強みを最大限活用できるよう市が引き続き担っていくほか、美術館運営、施設管理の効率化や美術館の利用活性化のため、民間ノウハウを活用した体制の検討が必要。

(2) 美術館の事業手法について

○想定される事業手法と官民の役割分担

- 分離分割発注 …行政主導で品質・仕様を細かくコントロールできる方式。設計→施工を別々に発注し、行政が段階的に意思決定する。美術館特有の要求を細部まで規定しやすい。
- DB方式 (Design Build) …行政は性能、要求水準を定めつつ、詳細の工夫は民間に委ね、設計と施工を一体で発注する方式。工期短縮が見込み、施工性を踏まえた設計が可能である。
- PFI-BTO方式 …民間事業者が施設を建設し、完成直後に公共に所有権を移転して、民間事業者が維持管理・運営する方式。建設、維持管理を一体で最適化するため、LCC(ライフサイクルコスト)※を最も下げやすい。

※建物の企画・設計から、建設、運用・維持管理、最終的な解体・廃棄に至るまでの建物に一生涯にかかる総費用

事業方式	資金調達	設計	工事施工	維持管理	運営	施設所有
分離分割発注	公共	公共 (委託)	公共 (工事請負)	公共 (委託)	公共 (委託)	公共
DB方式	公共	民間(JV等) (一括発注)		公共 (委託)	公共 (委託)	公共
PFI-BTO方式	民間	民間(JV等) (一括発注)			公共	

○設計手法の検討について

多彩なデザイン提案を募ることができる手法について、他都市の基本設計の発注事例を整理。

デザイン提案が可能な基本設計段階における公募(入札)への参加者は分割発注する方式がより多い傾向にあり、参加するための実績要件でも差異がある。

	分離分割発注		DB方式	PFI-BTO方式
	美術館A	美術館B		
設計	基本設計	分離分割	一括	分離分割
	実施設計	分離分割		一括
	工事施工	分離分割	分離分割	
基本設計の公募(入札)参加者数	約40者	約120者	約20者	3者
実績要件	美術館等の新築・増築・改築の設計実績(元請け)	延床面積1,000m ² 以上の完成した建築物の設計(新築)実績 ※美術館等の設計実績要件無し	美術館等の新築・増築・改築の設計実績(元請け)	延床面積2,000m ² 以上の美術館等の新築・増築の設計実績

○事業手法を検討するうえで考慮すべき項目(案)

今後、事業手法を検討するうえで、定性的な評価を行うにあたり、考慮すべき項目(案)は以下を想定。このほか、コストや財政負担など定量的な評価を行い、事業者意見も踏まえ総合的に判断する。

- ・警固公園地下という特殊性への対応
- ・設計時点における施工計画の反映
- ・民間企業の事業参画性(事業範囲や条件) など

(3) 公園の活用手法について

○アジア美術館の機能確保に向け、想定される公園の活用手法

想定される公園の活用手法については以下のとおり。

- ・設置管理許可 …公園施設(教養施設)として、にぎわい・集客機能含む美術館として市が整備。
- ・Park-PFI …公園の一部に民間収益施設(にぎわい・集客機能)を設置し、その収益を公園整備の一部に充当。
- ・立体都市公園制度 …立体的に公園区域を定めることにより、下部空間の利用形態に拘らず活用。

○活用手法を検討するうえで考慮すべき項目(案)

- ・公園として考慮すべき視点(動線、広場空間、見通し、みどり)
- ・都市公園法上定められた公園施設の建ぺい率の範囲内での規模、配置
- ・都心部に位置する美術館としてのデザイン性
- ・既存の地下構造物への影響 など